

評価結果概要表

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3870105016
法人名	社会福祉法人 道真会
事業所名	グループホームはぶやま
所在地	松山市高岡町779-6
自己評価作成日	平成27年11月12日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（このURLをクリック）

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人JMACS
所在地	愛媛県松山市千舟町6丁目1番地3 チフネビル501
訪問調査日	平成27年12月11日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

山を見渡せる静かな環境の中にあり、季節を楽しむことができる。散歩中には地域の方が気軽に声をかけて下さって、挨拶をしたりと気軽に地域の方と触れ合うことができる。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

<p>この一年、自治会長の協力もあり、地域行事への参加に力を入れて取り組んだ。公園で開催された盆踊り大会には、ほぼ全員の利用者で出かけ、踊りの輪に入る方もあった。又、公民館の演奏会には5人の利用者が参加し、フラダンスや民謡、カラオケを楽しみ、旧知の方から声をかけてもらうような場面もみられたようだ。</p> <p>職員の研修を契機に、アセスメントのさらなる充実に取り組もうとしている。先ず、モデルケースとして取り上げた利用者に、センター方式の「私の姿と気持ちシート」「私の暮らしシート」「わかること・わからないこと」「できること・できないこと」等のシートを活用して、ご家族にも協力を仰ぎながら職員が情報を出し合っアセスメントしたところ、利用者のこれまでの暮らしや思いをさらに深く知ることができた。それを日々のケアに活かすことによって、居室に閉じこもりがちだった利用者が、生活に前向きになり「居間にいたい」と言うようになる等の成果があった。</p>

・サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） 項目 1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当する項目に印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目：23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目：9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目：18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目：2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目：38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目：4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目：36,37)	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目：11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目：30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目：28)		

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- .理念に基づく運営
- .安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- .その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- .その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

用語について

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)

運営者 = 事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

職員 = 「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。

チーム = 一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

- サービス向上への3ステップ -

事業所名 グループホーム はぶやま

(ユニット名) 花

記入者(管理者)

氏名 喜安 直美

評価完了日 平成27年 11月 12日

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価) 基本理念の、「いつも笑顔、優しさ、思いやり」の言葉を目の届くところに張り、朝礼で唱和している。唱和するだけに終わらないように気をつけたい。 (外部評価) 事業所理念「いつも笑顔、優しさ、思いやり」に基づき、キャッチフレーズとして「のびのびと、いきいきと、ここにこのホッカリホームはぶやま」と掲げている。前回の外部評価後、職員で理念の見直しについて話し合った結果、「開設当初からの現在の理念が、事業所の目指すところにふさわしい」という理由で継続し、職員は理念を心に留めながら日々のケアに努めている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価) 毎朝施設前の清掃時、地域の方々と挨拶をしたり、地区の公園清掃に参加したりしている。 (外部評価) この一年、自治会長の協力もあり、地域行事への参加に力を入れて取り組んだ。公園で開催された盆踊り大会には、ほぼ全員の利用者で出かけ、踊りの輪に入る方もあった。又、公民館の演芸会には5人の利用者が参加し、フラダンスや民謡、カラオケを楽しみ、旧知の方から声をかけてもらうような場面もみられたようだ。散歩途中にあるスーパーでジュースを買い、公園のベンチで子ども達が遊ぶ様子を眺めながら休憩することもある。音楽が好きな利用者が多く、ボランティアのオカリナ演奏やクリスマス会の短大生のハンドベル演奏等を楽しみにされている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価) 地域の行事に参加したり、会議などで地域の方が来荘された際、話し合っている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 運営推進会議で話し合った事項を職員間で確認し、日々のケアに取り入れるべき項目について話し合いをしている。	
			(外部評価) 会議は2ヶ月に1回、第4週目の水曜日、又は、木曜日開催され、自治会長や民生委員、ご家族、利用者等が出席している。会議では利用者の近況報告、行事報告や予定、事業所の課題等を伝え、意見を聞いている。利用者にも必ず発言してもらおう機会をつくっている。管理者は、今後は町内の班長やお店の方等にも出席してもらえよう働きかけ、いろいろな立場の方に事業所を理解してもらおう機会にしていきたいと話していた。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者とは頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	(自己評価) 日常的には担当者との連絡は密に取れていない。会議や研修で外部へ出向く機会がある時等、積極的に協力体制を築いていきたい。	
			(外部評価) 運営推進会議時には、市の担当者や地域包括支援センターの職員から、議題に即して適宜アドバイスがある。管理者は、今後、市社協のボランティア情報を活用して、利用者が多年層とふれ合う機会や生活の拡がりにつなげていきたいと話していた。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 基本的には身体拘束をしないケアを職員間で心がけているが、どうしても行わなければならない状態の時は、ご家族に理解していただき同意を得た上で、短時間行うこともある。	
			(外部評価) 現在、外に出たいという訴えの強い利用者があり、職員の人数が限られている朝夕の時間帯に、ユニットの入り口を施錠している。 管理者は、今後、施錠の時間帯を短縮したり、日数を少なくする等、工夫していきたいと考えていた。施錠することでの弊害も合わせて考えながら、チームでケアのアイデアや意見等を出し合い、みなで話し合っ、施錠をしないケアの実践に向けて考え続けていってほしい。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 定期的な研修を受ける機会があり、学んだ事項を職員間で再確認しながら業務にあたっている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 研修で学ぶ機会を持つようにしている。必要な時に話し合いのもと、活用できるようにしている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 管理者から、利用者家族へ説明を行い、理解してもらうようにしている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) はぶやま便りを送付している。面会時に家族と会話する時間を持ち、意見や希望があれば話をきいている。	
			(外部評価) ご家族へは、毎月、管理者が利用者の生活ぶりや体調等について文書にて送付している。又、季節ごとの「はぶやま便り」では、行事風景や近況をお知らせしており、その際には、利用者個々に担当職員がコメントを記載している。ご家族の来訪時には、声かけしてお話をうかがい、気持ちを汲み取るように努めているが、職員によっては不十分なこともあり、管理者は、「ご家族との関係づくり」を課題と捉えている。今後さらに、ご家族とコミュニケーションを図る取り組みに工夫していきたいと話していた。昨年の家族会には3名の出席があったが、今年はまだ開催に至っていない。	ご家族の中には、「お世話になっている」という思いから、意見や要望を言い出しにくい方もおられるのではないだろうか。ケアパートナーであるご家族と利用者の暮らしを支えていけるように、一緒に勉強したり活動したりするような機会を設け、関係を作っていくってはどうだろうか。

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 月1回ワーカー会議を実施し、職員間で話し合う機会を持ち、反映させている。	
			(外部評価) 毎月、2ユニット合同で職員会を開催し、意見や情報交換し検討している。「感染症について」「アセスメントについて」等の研修後は、会議時に報告し共有している。「利用者がさらに食事を楽しめるよう、オープンを購入してほしい」という職員の要望等を、管理者は施設長につなげ、意見の反映に努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 有給は希望によって、入れるようにしている。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 研修予定表を貼り出し、希望者は参加受講できるようにしている。勤務時間内で受けるよう努めているが、勤務体制によっては難しい場合がある。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 管理者同士の会合や研修会に参加して、意見交換している。情報を持ち帰り職員間で日々のケアに取り入れている。	
安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 入所時の調査表をもとに、過去の生活の状態を把握している。家族からの聞き取りや本人の行動を見ながら、職員間で連絡を密にとり安心して過ごしていただく。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価)	
			入所時に管理者と家族が話し合う機会を持ち、不安を軽減する。面会時に気づいた事を報告し、安心していただくよう努めている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価)	
			家族や本人から話を聞き、状態を理解する。日々の生活の様子を記録観察して、必要なことをリストアップしている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価)	
			ひとりひとりの意思を尊重し、コミュニケーションを大切にしながら日々接している。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価)	
			面会の際に、日々の様子を報告している。家族の希望も聞きながら、利用者を支えていくようにしている。行事にできるだけ参加してもらえるように声かけしている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価)	
			面会時には、ホール・居室・希望の場所で、ゆっくり過ごしていただいている。	
			(外部評価)	
			利用者がご家族と一緒に外出できるよう、ご家族に利用者の希望を伝える等して支援している。以前入居していた施設でできた友人が、利用者を訪ねてくれたり、利用者の希望に沿って、住み慣れた家までドライブすることもある。100歳の利用者の方が市や県から表彰状を頂いた際には、ご家族も駆けつけてお祝いされ、利用者は皆の前で賞状を何度も読み上げて喜ばれた。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 自室だけの生活にならないよう職員が声かけをして、ホールに出て来ていただく。全員でレクリエーションする時間もあれば、ひとりひとりが自由に過ごせる時間もある。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 家族と相談して、手紙を出したりしている。	
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 利用者との日常の会話から、思いや希望を把握するように努めている。 (外部評価) 入居時には、フェースシートにて利用者の全体像を把握し、ケアに活かすよう努めている。事業所では、職員の研修を契機に、アセスメントのさらなる充実に取り組もうとしている。先ず、モデルケースとして取り上げた利用者へ、センター方式の「私の姿と気持ちシート」「私の暮らしシート」「わかること・わからないこと」「できること・できないこと」等のシートを活用して、ご家族にも協力を仰ぎながら職員が情報を出し合ってアセスメントしたところ、利用者のこれまでの暮らしや思いをさらに深く知ることができた。それを日々のケアに活かすことによって、居室に閉じこもりがちだった利用者が、生活に前向きになり「居間にいたい」と言うようになる等の成果があった。	さらなるアセスメントの充実に取り組み、情報を介護計画に反映するような仕組みを作ってほしい。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 利用者調査表にて、生活状況、家族からの要望を把握している。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 毎日ひとりひとりの状態を記録し、職員間で情報を共有しているが、申し送りの徹底が行われていないために、不十分な場合もある。細かい変化にも気づけるように、心がける。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>(自己評価) 本人と家族の意見を聞き、思いに添えるケアを心がける。介護職とケアマネジャーで話し合い、ケアプランを作成している。しかし、すべての職員がケアプランの把握には至っておらず、理解しきっていない職員も僅かだがいる。</p> <p>(外部評価) ケアマネジャーは「利用者が一番望んでいること」を反映できるよう留意して、介護計画を作成している。3ヶ月ごとにモニタリング、評価して介護計画の見直しにつなげている。</p>	
27		<p>○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>(自己評価) 毎日の様子を、生活日誌に記録している。個別の記録ファイルに詳細を記入し、日々の変化が把握できるようにしている。</p>	
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 多機能化にはなっていない。家族や本人からの要望に、対応できるようにしている。</p>	
29		<p>○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>(自己評価) 地域資源との関りが少ないので、把握できるよう努める。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)	
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	(自己評価)	月2回、かかりつけ医の訪問診療がある。その都度体調の変化があれば報告し、必要な場合受診している。家族の希望により、他医療機関を受診する場合もある。	
			(外部評価)		
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	(自己評価)	週1回訪問看護があり、利用者の体調において変わったことを報告相談している。看護師や医師から指示を受け、迅速な処置ができています。	
			(外部評価)		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価)	医療関係者、家族と連絡をとりながら、変わったことがあれば報告したり、状態を確認できるよう努めている。	
			(外部評価)		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価)	看取りは現在行っていないが、重度化した場合は家族と連絡を密にして、話し合っている。	
			(外部評価)		

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価)	
			救急通報研修、急変時の対応について学ぶ機会がある。研修を受けた職員は資料をもとに勉強会を行い、協力体制を築けるように努めている。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価)	
			年2回訓練を行い、消防署の協力も得ながら、避難誘導について学んでいる。 外部研修にも参加している。施設内研修にて地域への報告も行っている。	
			(外部評価)	
			5月と11月に避難訓練を実施しており、昼夜の想定・地震による火災の想定等、想定及び出火場所を変えて訓練している。今年5月には、ハイムリック法の講習も併せて行った。職員は、地域の防災訓練に参加している。地域の事業所連絡会時には、防災マップを作成して危険場所を確認した。事業所は土砂崩れの危険区域でもあることから、今後も地域の自主防災組織や近隣法人施設とのさらなる連携を図ってほしい。	
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価)	
			ホワイトボードをつかって筆談し、伝達する方法をとっている。	
			(外部評価)	
			管理者は、「利用者の思いを尊重し汲み取って、臨機応変に対応」するよう、職員を導いている。調査訪問時、食事を終えた利用者がかけていたエプロンはずし、丁寧に時間をかけて畳むのを、職員は傍でじっと見守り、「ありがとうございました」と声をかけていた。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価)	
			日頃から利用者とのコミュニケーションをはかり、思いを表現しにくい方に対しては、表情や態度から読みとるようにしている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 本人の意思を確認しながらケアを行うよう心がけているが、希望に添えない場合もあり、職員側に合わせている時もある。その時は別の機会に優先したりしている。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) どのようなものを好んでいるのかを把握しておき、自分のできる利用者には声かけを行う。 自ら準備できない方に対しては、介助を行っている。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 一緒に食事を作ることは難しいが、もやしの根切りやおしぼり巻きなど、手伝って頂いている。利用者と職員がメニューについて話しながら、楽しく食事できるようにしている。	
			(外部評価) 法人の管理栄養士作成の献立に沿って、職員が調理している。毎月、1のつく日はお寿司、15日はお赤飯となっている。洋食を好む利用者が多く、洋食を献立に増やしたり、利用者の希望で魚の湯引きを煮付けにする等工夫して対応している。職員は食事介助に専念し、交代で持参した昼食をスタッフルームで食べていた。管理者は、今後はホットプレートを使って、利用者と一緒に焼きそば等を作り、職員も共に食べる機会を作りたいと話していた。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 食事量、水分量は、毎日チェック表に記入している。個々の状態に応じて、形状、量など考えながら、少しでも摂取できるよう取り組んでいる。食事介助時の声かけにも気をつけている。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 口腔ケア、は毎食後必ず声かけをして行っている。それぞれ利用者の状態に応じてケアをしている。 必要に応じ歯科医へ相談を行っている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	<p>(自己評価)</p> <p>個々の排泄パターンを確認できるよう記録して、職員間で把握し声かけを行っている。 トイレ誘導を行い座っていただく方向で、介助、おむつパットの使用を減らすよう心がけている。</p> <p>(外部評価)</p> <p>昼間は、利用者全員がトイレで排泄できるよう支援している。利用者がトイレに行きたい時、自分で行けるよう、「こちらがトイレ」と目印を付けていた。</p>	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	<p>(自己評価)</p> <p>便秘の確認ができるようチェック表に記入し、確認している。水分摂取をこまめに行い、食事やお茶などで工夫している。体操で身体を動かしたり、マッサージしたりする。必要に応じ薬を服用している。</p>	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	<p>(自己評価)</p> <p>入浴日は決まっていて一人ひとりの希望に合わせるのは困難であるが、体調不良や本人の状況に応じ、時間や日を調整してできる限り希望に添える方向にしている。</p> <p>(外部評価)</p> <p>3日に一度、入浴を支援している。特殊浴槽を使って支援する利用者もあり、全員の方が湯船に浸ることができるよう支援している。これまでの習慣からシャワーを嫌がる利用者には、湯桶を使って支援している。湯船でゆっくりと足の曲げ伸ばしをしたり、歌を口ずさんだり、職員とお話を楽しんだりできるよう、利用者個々に応じた支援に努めている。</p>	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	<p>(自己評価)</p> <p>個々の身体の状態に応じて居室で休んでいただいたり、ホールで過ごしたりしている。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 医師の指示により、服薬を行っている。 利用者の状態に変化がある時には、訪問診療、訪問看護にて報告している。薬の変更がある場合服薬指導文書により確認、職員間で共有している。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) レクリエーションに参加したり、天気の良い日には散歩に出かけたりしている。 すべての利用者が楽しめる環境づくりをしていきたい。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 近くの公園や商店などに行く機会はあるが、希望に沿った支援ができない場合もある。家族に協力を得て、外出されることもある。	
			(外部評価) 1週間に1、2回は、事業所周辺の神社や公園まで散歩できるよう支援している。利用者の希望で、喫茶店や寿司屋に出かけたり、近隣の法人施設のそうめん流しや小学校からの招待で運動会に参加できるよう支援している。	職員は「もっと地域資源を利用して、気分転換ができるよう外出の機会を増やしたい」と話していた。外出することは利用者の楽しみでもあり、又、ご家族の期待度も高い。利用者が地域社会とつながりながら暮らせるように、利用者一人ひとりのこれまでの習慣や、個別の希望に沿った外出支援ができるよう、工夫を重ねていってほしい。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 自分で支払うことができる利用者は、高額ではないが所持していて、買い物に行った際使用している。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 家族との相談の上、電話をしたり受けたりすることはある。携帯電話を自ら所持し、連絡している方もいる。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>(自己評価) 季節を感じられるよう、室内の環境づくりをしている。窓の外 の景色から四季の移り変わりも感じながら、過ごしている。室内は場所がわかるよう、それぞれ表示されている。</p> <p>(外部評価) 居間には、クリスマスツリー等が飾られ、習字が得意な利用 者の作品が貼られていた。畑では、さつま芋やジャガイモを 栽培しており、利用者が植え付けや収穫作業ができるよう支 援している。ご家族から頂いた柿で干し柿を作り吊るしてい る。歌がお好きな利用者が多く、調査訪問時には、クリスマス やお正月の歌を歌う声が居間から聞こえてきた。</p>	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用 者同士で思い思いに過ごせるような居場所の 工夫をしている</p>	<p>(自己評価) テーブル席や、ソファでテレビを観たり、施設内玄関前の ベンチで気分転換できる。</p>	
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相 談しながら、使い慣れたものや好みのものを活 かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫を している</p>	<p>(自己評価) 家族に協力していただき、入居前から使っていた思い出の品を 持ってきていただき、落ち着いて過ごせる雰囲気づくりをしている。</p> <p>(外部評価) 居室は自然光が入り明るく、ベッド、たんす、洗面台が設置されて いる。ベッドに横になってテレビの時代劇を楽しむ方もある。調査 訪問時には、利用者が自室の窓から指さして散歩コースを説明し てくれたり、又、ご家族が毎年誕生日にプレゼントしてくれる花飾り を壁一面に飾っている方は、嬉しいお気持ちを話してくださった。 半紙にご自身が毛筆で1日のスケジュールを書いて、確認されてい る方もあった。短歌が趣味の方は、かつて自作が掲載された同人 誌を繰り返し読まれている。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかる こと」を活かして、安全かつできるだけ自立した 生活が送れるように工夫している</p>	<p>(自己評価) 限られた空間の中で車椅子の利用者には動きがとりづらい 場合もあるが、狭くならないよう整備して個々の機能を活か せるようにしている。</p>	